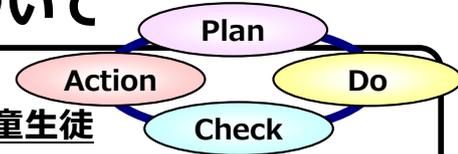


全国学力・学習状況調査について

調査の目的



- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、**全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る**
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等**に役立てる
- そのような取組を通じて、**教育に関する継続的な検証改善サイクル**を確立する

調査の概要

I. 本体調査（悉皆、毎年度実施）

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、全ての教育委員会や学校において、調査結果の活用を通じた教育施策や児童生徒一人一人への学習指導の恒常的な改善・充実を図る。

- 調査対象：全国の小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒（約200万人）
※公立、国立学校の実施率は約100%、私立学校の実施率は約40%
- 調査内容：①教科に関する調査
 - ・国語
 - ・算数・数学
 - ・理科（3年に1度）
 - ・英語（3年に1度、中学校のみ）②質問調査
 - ・児童生徒質問調査（生活習慣や学習環境等について）
 - ・学校質問調査（指導方法に関する取組や教育条件の整備の状況等について）

II. 本体調査を補完する調査（抽出、継続的・定期的に実施）

全国的な学力の状況について、**経年の変化を把握・分析し、今後の教育施策の検証・改善**に役立てる。

(1) 経年変化分析調査

- 調査対象：抽出された小学校第6学年、中学校第3学年の児童生徒
- 調査内容：教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

(2) 保護者に対する質問調査

- 調査対象：経年変化分析調査を実施する児童生徒の保護者全員
- 調査内容：質問調査（児童生徒の家庭における状況や保護者の教育に関する考え方等について）

令和7年度調査

I. 調査実施日

- 教科に関する調査（中学校理科以外）
令和7年4月17日（木）
- 教科に関する調査（中学校理科）
令和7年4月14日（月）～17日（木）で分散して実施
- 結果公表：令和7年7月14日（月）公表①
令和7年7月31日（木）公表②
令和7年8月以降秋頃目途 公表③
- 令和7年度調査の特徴
 - ・中学校理科をCBTで実施
 - ・中学校理科・児童生徒質問調査について、学校外でのオンライン後日実施を行い、多様な児童生徒の状況を把握
 - ・結果公表の内容・スケジュールを改善